

## 1 学校課題

- (1) 児童は、明るく素直で、物事に一生懸命取り組む子が多い。多様な生活環境、価値観、学力観の中で、2極分化の影響が児童にも及んでいることは否めない。家庭の教育力が、児童の基本的な生活習慣、学力に及ぼす影響は大きい。
- (2) 大規模校であるため、迫力ある集団活動が組織できるといった利点はあるが、反面児童一人一人に学力を保证するためのきめ細かい指導に費やす時間と労力は大きい。
- (3) 考えを伝えたり、相手の考えを理解したりする基本的な言語能力や自他を認め合う力が育まれ、学習集団の高まりもみられるが、依然として個人差は大きい。
- (4) 授業の中に「意図した言語活動」と取り入れることで授業のめあてに適した言語活動を設定できるようになった。結果、児童の思考が整理され授業のめあてに沿った考えも多く表出してきた。しかしその成果が具体的な成果となって児童や教師に確実に実感するまでには至っていない。

## 2 研究主題 「確かな学力」を育てる学習活動の研究

副主題 ～「意図した言語活動」で教科をつなぐ学習指導の工夫～（2年次）

## 3 主題設定の理由

本校では、昨年度から、研究領域をこれまでの研究をベースにした教科（先行研究教科）に体育科と英語科を研究対象に加え、授業にその目的に応じた言語活動（意図した言語活動）を取り入れることで児童の考える力を高める学習指導を研究してきた。その中で、研究領域を広めることで本校の先行教科での研究がより汎用性があるものであることが確認できた。授業の中に教師が意図した言語活動を取り入れることで児童の学ぶ中に考える場面が生まれ、授業のめあてに迫る反応もでてきた。しかし、児童の伸びを実感する指標（見取り）が教科によって曖昧で研究主題である「確かな学力の育成」が図れたか客観性のある評価を求める反省が多く出された。

本年度はこの課題を受け、「意図した言語活動」の成果を児童も教師も実感できる指標について研究を進める。これまでの研究で培ってきた授業における「意図した言語活動」を教師が継続的に指導を続けた結果を具体的な児童の姿として残せるものにしようと考え、その指標を使えば、体育科や英語科においても児童の変容を実感できるようにしたいと考える。

## 4 研究仮説

- ・意図した言語活動を授業に仕組み、学びの実感がもてる指標を導入することで、児童の確かな学力が育まれるだろう。（先行教科）
- ・先行教科の成果をもとに英語科・体育科における言語活動を授業に取り入れ、学びの実感がもてる指標を導入することで確かな学力が育まれるだろう。（英語科・体育科）

## 5 研究の具体的内容と方法

- (1) 理論研究や実践研究
- (2) 授業研究
- (3) 一人一実践の公開授業
- (4) 特別支援教育の学習会
- (5) 今日的教育課題関連の学習会

月	日	曜	教協研究日	回	校内研究内容	形態	T C 要請
4	10	水		1	研究主題・研究仮説・研究内容・研究計画	全体	
	17	水		2	全体計画の確認・各ブロック研究計画づくり	全・ブ	
5	1	水		3	学習会	全	
	7	水	教協総会①				
	14	水	教協研究日②				
	22	水		4	ブロック研究①	ブ	
6	5	水	教協研究日③				
	12	水		5	ブロック研究②	ブ	
	26	水		6	算数科 授業事前検討会（3年・新谷T）	全体	
7	7	水		7	算数科 授業研究会（3年・新谷T）	全体	○
8	2	金	講演・ブロック交①				
	5	月	教協夏季学習会④				
	15	水		8	今日的教育課題関連の学習会	全体	
	21	水		9	ブロック研究③	ブ	
	30	金	統一授業研⑤				
9	4	水		10	ブロック研究④	ブ	
	11	水		11	ブロック研究⑤	ブ	
	18	水		12	ブロック研究⑥	ブ	
10	2	水	秋季教研⑥				
	16	水		13	ブロック研究⑦	ブ	
	23	水		14	ブロック研究⑧	ブ	
	30	水		15	体育科 授業事前検討会（4年・中村T）	全体	
11	6	水		16	ブロック研究⑨	ブ	
	13	水	ブロック交②				
	22	金		17	体育科 授業研究会（4年・中村T）	全体	○
	27	水	教協研究日⑦				
12	4	水		18	英語科 授業事前検討会（4年・広瀬T）	全体	
1	15	水	教協研究日⑧				
	22	水	ブロック交③				
	29	水		19	英語科 授業研究会（4年・広瀬T）	全体	○
2	5	水	統一授業研⑨				
	12	水	冬季教研				
	19	水		20	ブロック研究⑩（本年度の成果・課題確認）	ブ	
	26	水		21	校内研まとめ（本年度の成果・課題）	全体	
3	5	水		22	研究紀要製本作業	全体	

※上記の予定以外に適時、必要に応じてブロック研究日や学習会を設定する。

※一人一実践についても、別途計画を作成し実施する。